



No.45

平成30年3月発行

広 報

たかしみず

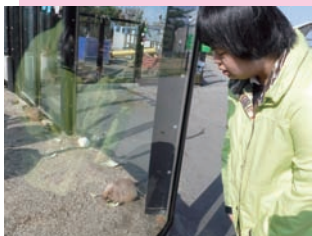
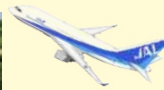
編集・発行 高清水園

〒010-1406 秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢14番地の1

TEL(018)829-3577 FAX(018)829-3578

HP <http://www.fukinoto.or.jp/takashimizu/>

自治会外出



行事写真



夏祭り



ボウリング大会



秋祭り



松尾貴臣
ミニライブ



私たちも参加しよう
募金活動



グループホーム忘年会





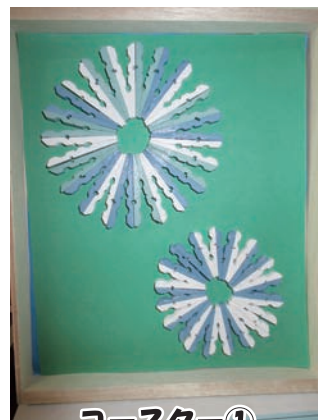
あきたけん!



私のリカちゃん人形



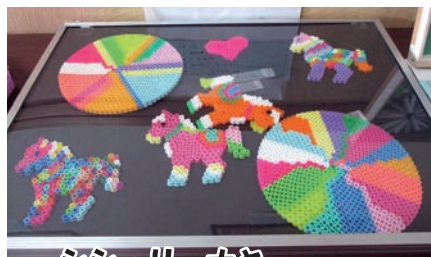
奨励賞



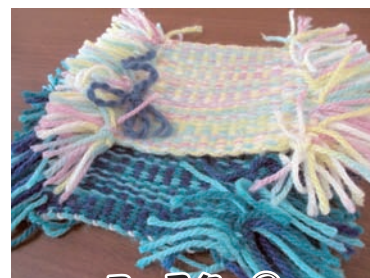
コースター①



和く話くの仲間

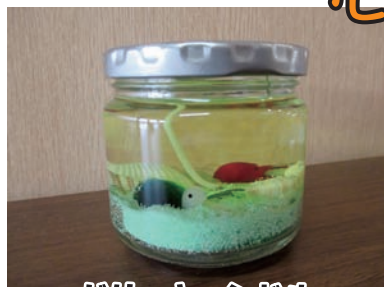


ジジュリーナと
すみっこぐらし



コースター②

心いきいき芸術文化祭 ～出展作品紹介～



ゼリーキャンドル



スノードーム



花入れ



カメと仲間たち



私



ディスプレイ



太陽光発電ライト



宝箱

高清水園支援課 事業内容について

今年度より、福祉型障害児入所施設が障害者支援施設に転換し、新たに「高清水園（東棟・旧成人棟）」・「たかしみず園（西棟・旧児童棟）」としてスタートしました。

現在、支援課で展開している五つの事業内容について紹介させていただきます。

① 居住支援事業（施設入所支援）

主に夜間において介護生活等に関する相談・助言のほか、必要な日常生活上の支援を行います。

② 日中活動事業（生活介護事業）

日中生活上の支援、創作・生産活動の機会の提供、身体機能又は生活能力向上のための必要な援助を行います。

③ 日中一時支援（日中受入型・放課後支援型）事業

市町村から委託を受け、在宅において介護を行う保護者等の疾病や他の理由により、数時間単位での利用を必要とする方への支援を行います。

④ 短期入所事業

在宅において介護を行う保護者等の疾病や他の理由により、短期間の入所を必要とする利用者の生活全般における支援を行います。

⑤ 放課後等デイサービス事業

（障害児通所支援事業）【和く話く（わくわく）】

特別支援学級、支援学校に学ぶ知的障害及び発達障害のある児童生徒（小学生・高校生）に対して、個別支援計画により障害特性や発達段階に合わせた支援を行います。

以上が事業内容の紹介となりますが、今年度は意思決定支援における新たな支援方法として、利用者の皆さんが外出する目的を理解し、自らの選択により楽しむことが出来るようタブレット端末（映像・動画）を活用した外出支援にも取り組んでおり、今後も引き続き、一人ひとりが「自分らしく生きる」を大切にした環境作りを職員一同目指して行きたいと考えております。

放課後等デイサービス事業について

高清水園では、放課後等デイサービス「和く話く」を開設し二年目となります。

小・中・高等部の支援学校や支援学級に通学している十二名の児童・生徒が放課後や長期休みに様々な活動を通して楽しく過ごしています。

特に、グラウンドや体育館で行う運動、創作活動の時間は、わいわいとぎやかな声が響いています。

今年度も「保護者向け放課後等デイサービス自己評価」を実施しました。保護者の方々に事業内容を評価していただき、保護者から見た取り組み状況を把握するとともに、その評価を今後の事業所運営に活かしていきたいと考えております。ご意見やご要望について検討会議等で協議し、結果や改善策についてはホームページで公表し、よりよい支援体制に繋げていきたいと思っております。

子どもたちとの関わりの中で、職員一人ひとりが大切にしていることを「職員は皆さんを応援しています」という文書にまとめました。

ぜひ、園行事等で来園された際は、「和く話く」に見学に来てください。

職員は皆さんを応援します！

高清水園

放課後等デイサービス事業所和く話く

- 1.皆さんが 出来ること・やりたいことを見つけるためのお手伝いをします。
- 2.皆さんの 話をたくさん聞き、友達と笑顔で楽しく過ごせる活動を一緒に考えます。
- 3.皆さんと家族のより良い生活のため、ひとりひとりが安心して心地よく過ごせる空間を大切にします。

和く話くの言葉の意味

和：なごやか、やわらか、なかよくすること、

「人の和」「家族の和」お互いに相手を大切に協力しあうこと

話：はなす、しゃべる、話し合う、相談する、

わくわく：ときどき、期待や喜びで心がはすむ

※ひとりひとりの成長につながる「わ」を大事にしています。

「平成二十九年 秋田県社会福祉事業団 実践発表会」を通して学んだこと

主事 栗沢 祥太

平成二十九年十二月十二日に、秋田拠点センターA1☆Vにて「平成二十九年 秋田県社会福祉事業団実践発表会」が開催されました。清水水園からは、「自由な選択と意思決定へのStep Up タブレット端末を活用した外出支援をとおして」というタイトルで発表しました。

今回の実践は、外出前にタブレット端末を活用して、複数ある外出先の中から利用者の皆さんに行き先を選んでもらうこと、より外出先の見通しを持ってもらうという内容でした。

これまで外出先を選んでもらう際、写真や絵カードを使って行ってきましたが、それだとうまく選べない方もいらっしゃいました。

絵はあくまでも絵であり、見た後に何が起こるか分からない可能性も考えられた為、動きのある動画を視聴してもらい、「これから動画と同じ事をするのかな？」と見通しを持ってもらえるよう実践を行いました。

実践中は、そもそも動画自体に馴染みが少なく、うまく選択出来なかったりと様々な問題点や改善すべき点が見つかりました。

その都度、職員や利用者の皆さんの意見を聞きながら動画内容を修正したり、より選択しやすい尺合わせなどの工夫を凝らしていくことで、最終的にはたくさんの方々に動画を見て選択をしていただくことができました。

中には、「動いてる方が分かりやすいよ」と話す方もおり、動画の方が選択しやすい方もいるんだと改めて気づくことができました。



タブレット端末を活かす支援の 先にあるもの

支援課・課長補佐 木村 英司



『もし、行ったことのない初めての場所に旅行するなら、あなたは どうしますか』と聞かれたら、皆さんはどうしますか？ ネットや旅行雑誌で情報を集めると思います。その場所の情報が少しでもあると、楽しみと感ぜると同時に、ちょっとした安心がうまれます。実際その場所に行くと、『あっ情報通りだ』ともっと安心し、もっと楽しさが大きくなると思います。

我々は、その『もっと安心、もっと楽しく』利用者の皆さんに感じて欲しいと思い、タブレット端末による支援を考えました。その第一歩が自分で選んで、『わかる』外出の支援でした。

タブレット端末による支援は無限の広がりを持っています。『わからなかった』ことが『わかる』に、『不安』なことが『楽しい』ことに変わるのです。来年度以降、清水水園では皆さんの『楽しい』のため、創意工夫をし、この支援を続けていきます。



【ボランティア講座】

十二月九日に平成二十九年度のボランティア講座を開催しました。ご参加いただいた方には、園内見学や講義の後、外出支援の体験をしていただき、利用者の方と直接ふれあい、有意義な時間を過ごすことができました。



高清水園では行事ボランティアはもちろん常時ボランティアを募集しています。ぜひお気軽にご連絡下さい。

《お問い合わせ》〇二八一八二九一三五七七

担当者 相庭・中村

【研修委員会から】

多くの職員を対象として、「救急救命講習」と「権利擁護研修」を実施しました。「救急救命講習」は毎年繰り返し実施を行うことで、万が一の際にスムーズに行動できるよう備えを万全にしています。

今年の「権利擁護研修」は、テーマに沿って職員が寸劇を行いました。実際に目にしたり耳で聞いたりすることで考えさせられる場面があったとの声が聞かれていました。

今後も各種研修で学んだことを業務に生かし、利用者の皆さんが安心して生活出来るよう支援していきたいと考えています。

←救急救命講習の様子



→権利擁護研修の様子



【利用者の動向】

《入所》・西棟 よつば寮 武藤真奈美さん

・グループホーム「みのり」

《退所》・西棟 よつば寮 高田 恭兵さん

・グループホーム「みのり」 田口美穂子さん

・グループホーム「みのり」

高橋 保さん

グループホーム避難訓練

二月に、消防署員立ち合いのもと、六ヶ所のグループホームで夜間火災想定避難訓練を行いました。

利用者はもちろん、世話人、支援員が参加し、いざという際の避難場所や緊急時の対応を確認し合うことが出来ました。

今後も訓練の機会を設け、防災への意識を高めていきたいと考えています。



編集後記

四月に新たな一歩を踏み出してから、早いもので一年が経とうとしています。この間、園行事の他にボウリング大会などの地域との交流やボランティア講座の開催、事業所内研修といった取り組みを継続し、各事業をより一層充実させることが出来ました。今後も、皆様からのご理解、ご協力をいただきながら、利用されている方々が安心かつ楽しく過ごせるよう努めていきたいと考えております。